

# UIFA JAPON NEWSLETTER



No. 107 Aug. 25, 2017

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

国際女性建築家会議 日本支部

## ■主な内容

2017 年度通常総会報告  
UIFA JAPON 25 周年記念講演会 講師妹島和世氏を迎えて  
この指とまれ企画 すみだ北斎美術館 見学に参加して  
特集「UIFA JAPON のグループ活動」  
災害復興見守りチーム  
「だれでもフォトグラフィア」グループ/「どこでもカフェ」グループ  
住まいづくり勉強・相談会グループ/法末支援グループ  
研究チーム  
25 周年記念誌作成グループ  
『UIFA JAPON 復興ハウス—高齢期のコンパクトな住宅提案』の設計活動グループ  
『豊かな時が流れる—日本のコレクティブハウジング』『青本』へのプロセス  
熊本地震から 1 年  
被災地通信 (17)



この指とまれ「豊洲運河ルネサンス」東雲水門を過ぎて、稲垣会長と NHK クルー (写真: 加部)

## UIFA JAPON 2017 年度通常総会報告 UIFA JAPON 2017 General Meeting Report

稲垣 弘子  
INAGAKI Hiroko



稲垣 UIFA JAPON 会長 写真: 一柳龍伸

2017 年 7 月 1 日 (土)  
15:30 ~ 17:00、日本大学  
8 号館 851 教室で第 25 回  
UIFA JAPON 総会が開催され  
た。正会員 74 名の内、  
出席 34 名、委任状 21 名  
で定足数を確認、総会開  
催が成立。第 1 号議案の  
2016 年度活動報告、会計

報告、監査報告が行われ承認された。第 2 号議案の 2017 年度活動計画、予算案が発表され承認された。

特記すべき活動として

### ■職能を生かした被災地支援 (2016 年度)

2016 年度は熊本地震や台風 10 号による土石流被害など大きな自然災害が起き、会員からの義捐金や防寒肌着を被災地に送った。御船町訪問時に町長との会談から「UIFA JAPON 復興ハウス—高齢期のコンパクトな住宅の提案集」を作成し、御船町で「住まいづくり勉強・相談会」を開催した。

### ■会員が参加・活動しやすい組織を目指す (2017 年度)

活動グループを作り、会員がそれぞれ興味のある活動グループに登録、活発に活動できるようにする。災害復興見守りチームに 4 グループを、研究会に 2 グループを設定。「この指とまれ」のような会員の発意による活動は更に充実していく。ミニニュースは、会員欄を作り、旅行記や近況報告など自由な声の場とする。審議事項の後、25 周年を記念して、「UIFA JAPON の 25 年」を PPT で松川淳子相談役が報告した。① UIFA JAPON について、② 女性建築家の活動、③ 被災地支援活動に分けて説明し、総会は終了。総会に先立ち交流会が開催された。

Marking a quarter-century milestone, UIFA Japon held its 25th general meeting on July 1 at Nihon University.

**Notable activities in 2016: Support activities in disaster areas utilizing vocational skills (2016)**

Several major natural disasters occurred in 2016, including the Kumamoto Earthquake and the debris flows of Typhoon Lionrock (No. 10). We sent donations from members and warm underclothes to the disaster-hit areas. When we visited the town of Mifune, at the request of the mayor we created a proposal for the UIFA Japon Reconstruction House: Compact Residences for Seniors. We also held a study and consultation session on housing creation.

### Action plan for 2017: Aiming to boost participation and enhance collaboration

In order to boost member participation in activities, we have created new activity groups. We have set up 4 disaster support teams and 2 study teams, and are encouraging members to join the teams they're interested in. For the publication UIFA JAPON D' AUJOURD' HUI, we will create a column for members to share travel stories and recent status reports. In commemoration of UIFA Japon's 25th anniversary, adviser Junko Matsukawa gave a presentation on UIFA Japon at 25 years, covering the organization's history, female architects' activities and disaster-area support activities.



正宗さんが庭より花を持参

2017 年 7 月 22 日にこの指とまれ! 「豊洲プロジェクトのしくみと住民が関わり変わる町 (運河ルネサンス)」について、次号で報告します。それに先立ち、船に同乗した NHK クルーによる豊洲運河ルネサンスの紹介が、来る 9 月 4 日 19:00 ~ 19:30、BS プレミアム「東京ディープ」で紹介されます。ご覧ください。

**UIFA JAPON 25 周年記念講演会 講師 妹島和世氏を迎えて** **上田 壽子**  
**Pritzker Winner Kazuyo Sejima Delivers Lecture Commemorating the 25th Anniversary of UIFA Japon** **UEDA Hisako**

2017年7月1日(土)夕方6時から、日大理工学部8号館の教室をお借りして建築家妹島和世さんの講演会が開催されました。200名あまりの学生たち、またUIFA会員、一般の方たちも多く参加され、会場は熱気ムンムンでした。

私が妹島さんの名前を目にしたのは、1991年熊本の再春館製菓の女子寮のコンペ当選案を伝える建築雑誌であったと記憶しています。それ以降あれよあれよと言う間に建築界の時代の寵児になり、2010年には建築界のノーベル賞と言われるプリツカー賞を受賞されました。彼女を見ているとやはり「女性初の」という冠は関係なく、まさしくそこに存在する建築家であり、男も女も関係ないということ！この日もステキな紺色のお召し物でした。

ご講演では内部空間と外部空間がつながる面白さ、自然に周囲に溶け込んでいけたらいいと。視覚的なこととか、例えばプランニングのことなど色々お聞きしました。

「環境と建築」というテーマでお話しされたわけですが、建築家の講演会ではややもすると堅苦しい、数字の羅列、熱効率がどうの、CASBEEがどうのといった数値のお話になるのですが、そういった説得のしかたではなく、自然に溶け込んでいくという手法であるようで、そのあたりが彼女のしなやかさだと思います。

ローザンヌの建物は起伏にとんだ土地をそのまま生かし、中庭のつながりが新しい風景のつながりをもたらし、大きなワンルームのようであり、連続することにより明るいようで深い光にも出会え、地元ですんなり受け入れられているのが良くわかります。

犬島「家プロジェクト」は瀬戸内の小さな島に人の交流をもたらしています。島全体をアートにと提唱された福武氏や安藤氏の誘いもあり参加された模様。みんなと一緒に作る風景というものが若者に受け入れられているようです。

彼女の名前を不動のものにしたのが「金沢21世紀美術館」であると私は思います。全ての原点がそこに集約されています。開館から13年経過した今でも相当の集客があり、何より市民に開放され、溶け込んで使われている、子供たちが楽しく過ごしている！今までこんな美術館はなかったように思います。

京都の集合住宅、山形鶴岡の多目的ホール、東京小平市仲町の図書館、ルーヴル・ランス、ブダペストのナショナルギャラリーと今進行中の建物も含めて夢のあるお話をしてくださいました。これからのますますのご活躍を期待しています。ありがとうございました。

On July 1, 2017, Pritzker-winning female architect Kazuyo SEJIMA delivered a commemorative lecture marking UIFA Japon's 25th anniversary at Nihon University, Tokyo. Over 200 students, UIFA members and the general public participated.

I first saw her name in a construction journal in 1991, introducing her competition-winning proposal for the girls' dormitory of Saishunkan Co., Ltd. in Kumamoto. After that, Sejima became a darling of international architecture. In 2010, she was awarded, with her partner in SANAA, Ryue Nishizawa, the Pritzker Prize, often referred to as the Nobel Prize of architecture.

Sejima and Nishizawa are renowned for their many glass building designs, which blend with the surrounding nature, connecting the inner and the outer spaces naturally.

The 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa made Sejima's reputation unassailable. It welcomed active use by the local community and still has many visitors after 13 years. Kids look like they're having so much fun there.

Sejima introduced many of her other designs, including ongoing SANAA projects: rental housing (Kyoto), Tsuruoka City Cultural Hall, (Tsuruoka, Yamagata), Nakamachi Terrace lifelong learning center (Kodaira, Tokyo), Louvre Lens (Lens, France) and the Hungarian National Gallery (Budapest, Hungary). Sejima's continued success is greatly anticipated. (T)



すみだ北斎美術館  
Sumida Hokusai Museum : c Kazuyo Sejima and Associates



左：犬島「家プロジェクト」  
Inujima Art House Project / A-Art House  
: c Kazuyo Sejima and Associates, "reflectwo"  
courtesy: Haruka Kojin (SCAI THE BATHHOUSE)  
上：7月1日 記念講演会の会場 (写真：一柳)

## 学生たちの感想 Impressions of the Commemorative Lecture by Students

感想①  
Impression ①永島 咲妃  
NAGASHIMA Saki

妹島和世氏の講演を拝聴して感じたのは、実在する姿を想像できないことだった。当該一連の作品を写真では見ることがあったが、特にロレックス・ラーニングセンターはリアリティを持ってなかった。もし実際に現地を訪れたら異次元に感じるだろう。世界的に有名な建築家であるが故、建物に狙いを込めて考え、すべて計算づくで人にインスピレーションを与えていると思っていた。意図しない利用者の使い方や付随的効果があることに驚いた。

日本大学短期大学部 建築・生活デザイン学科 2年

Listening to Kazuyo Sejima's lecture, I realized it is impossible to understand the reality of the buildings. Although she showed photographs of many works, the Rolex Learning Center in particular was impossible to imagine. If you actually visit the site,

You will experience its unusual-dimensions. Because she is a world-famous architect, I thought she carefully calibrated all characteristics of her buildings to inspire people. I was surprised beyond her intention there are many unexpected usages and effects. (Y)

(Junior College of Nihon University : sophomore)

感想②  
Impression ②杉山 五月  
SUGIYAMA Satsuki

金沢 21 世紀現代美術館やロレックス・ラーニングセンターなど様々な名建築を手掛けられた建築家の話を間近で伺い、大変有意義な時を過ごすことが出来た。中でも私は西野山ハウスの 21 枚の勾配屋根を一枚の大屋根で覆い、そこに暮らす人々が同じ屋根の下で生活を共にするというコンセプトが集合住宅の在り方として、大変興味深かった。当該講演はまたとない機会であり、学生時代に一連の建築や設計論を拝聴できたことに深謝したい。

日本大学理工学部建築学科 4年

It was very useful hearing the story of the architect who was engaged in such designs as the 21st Century Museum of Contemporary Art and the Rolex Learning Center. Among the designs, I was very interested in the way she unified 21 individually sloped roofs underneath a single large canopy roof at the Nishinoyama House complex, so the people living there live together under the same roof. The lecture was an unparalleled opportunity and I would like to thank her and all the staff for allowing me, as a student, to listen to a series of architecture and design theory lectures. (Y)

(Nihon University:senior)

この指とまれ企画 {すみだ北斎美術館} (妹島和世設計) 見学に参加して  
Study Tour of Sumida Hokusai Museum by Kazuyo Sejima吉田 あこ 記  
Impressions by YOSHIDA Ako

私の尊敬する建築家芦原義信先生が妹島氏を私に紹介くださり、“その作品にどこか天才性がある”と言われた、それ以来私は氏の作品に強い興味を抱き、やがて氏は遂に世界に誇る建築家の一人となられた。

先ず、独特な包絡面で覆われた外壁に鋭い切れ目を2つ地上からと天井から切り込んでいる。

氏は設計する時は何時も建物の内部機能と外部立地環境を視野に入れるとのこと、つまり、地域の人々に開かれた道と天界の光の誘導と眺望か。

さて、平面計画では一階は地域社会の人々に開かれ図書室、活動室、土産店等の4ブロックが四方から入れる小径で巻かれ入館しなくても壁ガラスを透かして内部の様子が見られる。

これに対して3階4階は閉鎖的に遮光され、室相互も詰めて連結され、ここは光を嫌う永久展示場や投光機使用の展示場となっている。さて、屋上は視界が開けスカイツリーが望まれ、遠景富士山もまた北斎を偲ばせる。

こうして、美術館に必要な機能を素直に無理なくまとめた計画でありながらその形態に何かを越えた非凡さが漂う。北斎の絵が時空を超えて称賛されつづけるようにこの美術館もまた永く地域いや世界の人々に愛されることであろう。

Respected architect Yoshinobu ASHIHARA first introduced Kazuyo SEJIMA by saying that there is “some sort of genius in her work.”

Since then, I have been interested in her work. She has continued to evolve, and become a world-famous architect.

Sejima's Sumida Hokusai Museum has a fantastic outer skin with two deep slits, one from the ground, for the community to use; and the other from the top, for allowing a heavenly light to shine through.

During planning, she separated the building into four blocks — library, activity rooms, souvenir shop. The ground floor is open to people from the community, who can easily approach it and look at the activities inside through large glass windows, without buying tickets. The 3rd and 4th floors, however, are closed to sunshine, making them suitable for displaying the ukiyo-e prints.

The excellence of Sejima's work achieves a state of art, which, like the works of Hokusai, transcend time and borders.



緑町公園より美術館を臨む

写真：井出

UIFA JAPON の活動グループの紹介 Introduction to our activity groups.

- 1) 災害復興見守りチーム 4 groups in Support for Disaster Area.
  - ①「だれでもフォトグラファ」グループ
  - ②「どこでもカフェ」グループ
  - ③住まいづくり勉強・相談会グループ
  - ④法末支援グループ
- 2) 研究チーム 2 groups in Study Team.
  - ① 25周年記念誌作成グループ
  - ② UIFA JAPON 復興ハウスの設計活動グループ

1)-①「だれでもフォトグラファ」グループ  
 “Daredemo Photographer” Support Group

松川 淳子  
 MATSUKAWA Junko

「岩泉町だれでもフォトグラファ」は、2011年11月にスタートし、現在に至るまで継続している、東日本大震災の被災者を中心とした岩泉町民による活動です。

- 復興プロセスを自分たちの手で記録し、復興を後押ししよう！
- ふるさと岩泉の美しい姿を再発見し、コミュニティの絆を強化しよう！
- 〈岩泉のいま〉を世界に発信しよう！

をスローガンに、プロカメラマンの技術指導を受けながら、自主撮影、撮影会、合評会などを繰り返し、毎年3月11日には、小本駅構内や防災センターでの写真展「春遠からじ」を開催してきました。

2015年、2016年、2017年に発行された『復興記録集その①、その②、その③』には、フォトグラファたちの写真がたくさん納められています。私たち UIFA JAPON は、この活動を全面的にサポートし、ヴァージニア工科大学や東京都中央区での写真展開催なども実現し、復興の現状を世界に知らせることに協力してきました。

現在、「だれでもフォトグラファ」たちと連携しながら、2016年8月末の台風10号による岩泉町の被災にも、方法を模索しながら少しずつ手を差し出そうと考えています。

The activities of Daredemo Photographer are activities by people of Iwaizumi town. They started November 2011 and continue even now.

Slogans of their activities are;

- 1) Let's record the process of reconstruction of Iwaizumi town damaged by Tsunami in 2011!
- 2) Let's reconfirm the beauty of our town and strengthen our community-power!
- 3) Let's report the situation of our town now and inform it all over the world!

We support this team and cooperate to realize their slogans.

We are now trying to find the best way to support the damaged areas hit by Typhoon 10 in 2016, for closer connection with Daredemo Photographer.



小本駅での展示会 (写真: 平野)

1)-②「どこでもカフェ」グループ  
 “Dokodemo Café” Support Group

森田 美紀  
 MORITA Miki

被災地のどこにでも行くから「どこでもカフェ」。新潟県小国町法末での活動から続いている。UIA 日本大会をきっかけに「おもてなしチーム」が発足し、2011年10月から東日本大震災の被災地である岩手県岩泉町で「どこでもカフェ」としての活動が始まった。

今まで、東日本大震災の被災地である岩手県岩泉町(小本、森の越、小成)、福島県(郡山市、本宮市)一時避難所の加須市の高校、大船渡市、土石流被害の大島において、仮設生活を余儀なくされた方々に少しでもゆったりした時間を過ごしてもらい、前向きな気持ちを持ってもらえるよう、被災者に寄り添った活動を行ってきた。

首都防災ウィーク、(東京両国)では「防災カフェ」として、他団体とも協力しながら防災・減災の啓蒙活動を行ってきた。今年度で4回目となる「防災カフェ」では、更に建築士として防災への取組を考える場となるように試みてみたい。

また、ほかグループとも協力して2016年8月の台風10号により被災した岩手県岩泉町への支援も考えていきたい。

Dokodemo means everywhere in Japanese. Because we have gone everywhere in disaster areas to assist with recovery efforts, we gave the name Dokodemo Café to our limited-time cafes.

These Cafés were opened after the Tohoku Earthquake in towns like Iwaizumi and Ofunato, which was damaged by the debris flow; in a high school in Kazo, and in some cities in Fukushima that were used as temporary evacuation centers. We have tried to provide relaxed and positive experiences to those who have been forced to live as refugees.

We also ran a Disaster Prevention Café during Disaster Prevention Week in Tokyo, and have been engaging in awareness-raising activities for disaster prevention and reduction. I would like to try to create a place in which to consider disaster prevention measures as an architect this year. Also, in cooperation with other groups, we would like to consider further support for Iwaizumi, which was affected by Typhoon Lionrock in August 2016. (T)



「第3回防災カフェ」準備完了

### 1)-③ 住まいづくり勉強・相談会グループ Housing Creation Study and Consultation Session Group

井出 幸子  
IDE Sachiko

2016年度、熊本の御船町町長が高齢者向けの復興住宅について言及されたことをきっかけにして「UIFA JAPON 復興ハウス - 高齢期のコンパクトな住宅提案」を会員から募り、冊子化しました。

この春、御船町にて、この提案集を使い「すまいづくり勉強・相談会」を開催しました。日本中どこからでも、被災地に駆けつけ、建築士として、住まいづくりの勘所を語ろうと思います。被災された方が、この勉強会への参加を通して「住まい・家族・人生そのものを見直すきっかけになった」と、住宅再建等へ前向きに進んで行けるように期待している企画です。

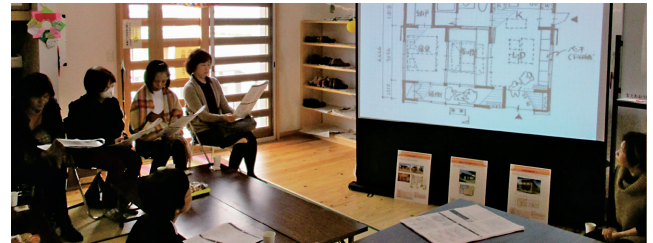
今年度は建築教育技術普及センターの助成申請が採択されました。熊本・岩泉で地元建築士会女性部会の方々とともに、実施予定です。被災後の情勢、公費支援の各段階の状況を確認し、そのタイミングに必要とされる支援の形を検討していきたいと考えます。

As the result of a comment from the mayor of Mifune, Kumamoto Prefecture, we solicited proposals from UIFA Japan members and created a booklet with proposals for the UIFA Japon Reconstruction House: Compact

Residences for Seniors. This spring, we also held a housing creation study and consultation session in Mifune.

Whenever there is a disaster in Japan, we immediately go from all over the country to offer our perspectives as architects. Participating in our study sessions, those who are affected by disasters are expected to begin rebuilding right away.

Our application for a subsidy from the Building Education Technology Diffusion Center was accepted. This year we plan to proceed with projects in Mifune and Iwazumi-cho with local female architects. We will review the situation at each stage and consider requirements for public expenditure support.



2017年3月御船町仮設住宅にて勉強・相談会

### 1)-④ 法末（新潟県長岡市小国町法末）支援グループ Hossue Support Group

宮本 伸子  
MIYAMOTO Nobuko

2004年10月23日17時56分、中越地方で発生したマグニチュード6.8、最大深度7の地震により、多くの中山間地の集落が孤立、全村避難を余儀なくされた。それからおよそ1年後の2005年の秋から、UIFA JAPONでは日本都市計画家協会の中越震災復興プランニングエイドに協力する形で、全村避難から集落に多くの村民が戻ろうとしていた長岡市の法末集落（当時小国町法末）に被災地支援に入った。

「災害復興見守りチーム」は、ツールズ大会のテーマに触発され、その直後の中越地震への対応も考えたものであり、UIFA JAPONとしての被災地支援活動の原点と言える。

その後、集落の再生計画を立てたり、毎年正月などに実施するお茶会などのイベント、足湯の開設、棚田でのお米作りへの挑戦、集落全体オープンガーデンとしての女性を中心とした活動など、多種多様な活動を行ってきた。

現在は被災地支援というより、中山間地の集落継続支援という趣が強くなっているが、お正月のお茶会実施、オープンガーデンの支援、カレンダーの発行などの活動を継続中であり、また地元のおいしい食材を使った料理教室モバイル・キッチンも行っている。

In October 2004, the Niigata Chuetsu Earthquake struck an isolated mountain area in which the village of Hossue is located with a magnitude of 6.6. Many villagers had to seek refuge for a long time.

UIFA Japon immediately set up a support team and went to Hossue, which is how the team came to be called the Hossue Group. We helped plan rebuilding efforts, held tea ceremonies and other events, and started a female group that opens every garden in the village to everyone, with villagers and other supporters.

Today, we continue to support the village with a variety of activities, including holding tea ceremonies, issuing calendars, gardening and starting local cooking classes.



棚田の実りの風景（写真：大橋トヨ子）

2)-① 25周年記念誌作成グループ  
The 25th Anniversary Issue Group

中島 明子  
NAKAJIMA Akiko

1992年にUIFA JAPONが設立されて2017年は25周年を迎えるのは周知のこと。四半世紀に蓄積されたUIFA JAPONの活動を、次の10年、20年につなげ、新たな流れを注ぎこむために、「25周年記念誌」をまとめるにはどうしたらよいでしょうか？

活動記録をただ時系列に並べるのではなく、創立以来展開してきた活動が、第1に私たち会員にとって、第2に建築にかかわる女性技術者・専門家にとって、さらに第3に建築全体の技術者や建築界や生活空間にとって、どういう意味があり、何を得たかを改めて考えてみたいと思います。

内容の柱は①前史も含めた25年の歴史 ②会員交流 ③世界大会の開催と参加 ④災害等の支援活動 ⑤女性建築家の発見や実態等の研究活動があり、これらが絡まり合っていると思います。

これを契機に埋もれていた資料やエピソードも掘り起こして、アーカイブを充実させてゆくことも考えられます。そして何よりも会員の声や思いが共鳴しあってUIFA JAPONがあるようなものになるとよいのですが。

25年間の活動を素材にどのように料理するかはこれからです。みんなで考えながら記念誌を作成してゆきましょう。

For our 25th anniversary in 2017, we considered ways to create a commemorative document that connects all our activities over the past quarter-century with

anticipated trends and topics in the decades to come.

This document of our activities is intended firstly for our members, secondly for women architects, and thirdly for all architects. In compiling it, we would like to review the impact and meaning of these activities. It may also be possible to use this opportunity to dig up materials and episodes that were buried and to enrich our archive. Above all, it is good that the voices and feelings of UIFA Japon members will resonate in this history.

The contents will include: ① History, ② Membership exchange, ③ Holding and participating in UIFA conferences, ④ Support activities for disasters and ⑤ Research about women architects, which are all interconnected. How can we all create a memorable document of our activities and achievements over 25 years? This is our challenge.



20周年記念講演会

2)-②『UIFA JAPON 復興ハウス—高齢期のコンパクトな住宅提案』の設計活動グループ  
Revival House Design Group in UIFA Japon

加部 千賀子  
KABE Chikako

御船町に寄贈した『UIFA JAPON 復興ハウス—高齢期のコンパクトな住宅の提案集』は、様々な視点からのプランが寄せられ、大変興味深い冊子です。今後は、地方の暮らしに合った最小限のプラン作りが必要ではないかと思ひます。最小限プランは、住み手に合わせた調整や、様々な計画への展開が可能だからです(図面参照)。

これからの活動は、最小限住宅を念頭に置き、再び会員にプラン提案を募り、既に頂いたプランと共に、精査・ブラッシュアップとカテゴリー分類をし、提案集の再構築を行います。

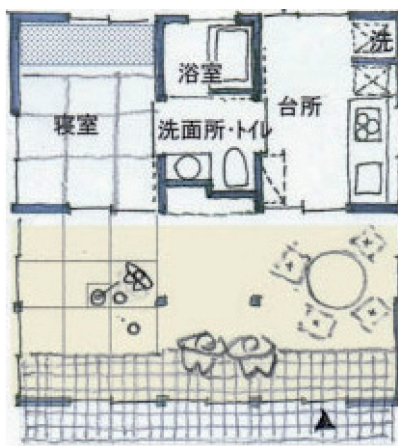
また、被災地での住宅相談での情報も共有し反映したいと思います。「共同居住・コミュニティへの展開も考える」については、具体的なプロジェクトがあれば、検討致します。

意見交換は、顔を合わせての打合せやメールでの連絡が基本ですが、ビデオ会議なども考えられますので、遠隔地の会員の方もご参加下さい。以上の方針でこの1年間、進めさせていただきます。

The booklet *Housing Reconstruction Design - A Collection of suggestions for compact houses for the elderly* is a very interesting book in which we collected some housing plans from various viewpoints, and presented the booklet to Mifune Town in the Kumamoto disaster area. I think having a minimum plan in accord with local living is necessary in future, since it will be able to change other plans depending on people living in it.

From now on, we will collect more plans from our members, and make a close inspection, brush-up and category classification, then we can rebuild the collection of plans. We will use it when we meet with the people in disaster areas.

We will also enhance our activities to include projects for apartment housing and community housing. Please join this group, and exchange opinions via teleconferences, emails, and other media. (M)



16坪のコンパクト住宅 (住宅の提案集より)  
Compact Housing Plan

近年、女性の社会進出の普遍化、超高齢化、少子化、単身世帯化、家族の変容、格差の拡大など、社会環境の著しい変化の中で、孤立化、コミュニティ意識の希薄化、人の関係性の脆弱化が危惧されている。

暮らしを取りまく環境の変化は、個人や小さな家族の努力だけでは至らず不安で、豊かな人間関係のある暮らしの環境を創ることはむずかしい。

1992年創設のALCC (Alternative Living & Challenging City) は「共に住む、共に生きる、共に創る」を理念に、コミュニティが抱える問題解決の可能性をもつコレクティブハウジングを研究してきた。住まいは、物的に、いわばハードの供給にとどまっては総合性に欠ける。ALCCは、住まい方、暮らし方、人と人の関係性に視点を当てた。日本においても社会的ニーズがある。研究から実践へ。2001年にNPO CHC (NPO コレクティブハウジング社) を創設。北欧など海外視察、国内視察、数え切れないほどのワークショップを積み重ね、日本での実現を目指した。コレクティブハウジングは、本来なら公的政策に組み込まれることが理想である。だが壁は硬く柔軟性にかける。

小さなNPOが、コレクティブハウジング普及にチャレンジして16年。初めて日本におけるコレクティブハウジング実現事例を「青本」としてまとめることができた。この本は、コレクティブハウジングの実例紹介や仕組み、活動系譜、また新たな社会的ハウジング「タウンコレクティブ」(CHCによるネーミング)の紹介など、住まいの先進事例集となった。キーワードは、多世代、多様性、内発性、自律発展性。実現したコレクティブハウスは、いずれも魅力的な個性を持って、生き生きと暮らしの風景がみえる。

一方、東日本大震災や熊本地震など想像を超えた大災害は、人のつながりの大事さを再認識させた。CHCは支援活動においても、孤立化や孤独死、家族や友を失った老若男女の心の苦痛にも向かい合わねばならなかった。

厳しい現実の中で、コレクティブハウジングの紹介が役立った。個を備えつつ、語らう場“コモン”の役割が重要だ。

さて、106号で紹介したUIFA JAPON復興ハウスの高齢期の住宅提案においても、一軒の住まいの型も重要だが、コレクティブな暮らしや、集落のコモンズなど、地場にあったコミュニティ形成とつながる提案も必要と感じた。この小さな本が皆様に役立てば幸いである。  
<https://chc.thebase.in/> へ。

In recent years, isolation and the erosion of community awareness have become deep matters of concern, as have the universalization of women's social advancement, super-aging, declining birthrates, single householders and family transformations. Our anxiety is the weakening of these relationships. The change in the environment that surrounds life is difficult to create alone due to efforts of individuals and small families, and it is also difficult to maintain our rich human relations.

ALCC (Alternative Living & Challenging City) was founded in 1992. Housing should be comprehensive, focusing not only on the supply of hardware and our way of living but also on the relationships between people. In 2001 NPOCHC (NPO Collective Housing Company) was founded, not for research but to put ideas into practice.

A small NPO has been tracking the growth of collective housing for 16 years. For the first time, their efforts to compile collective housing cases in Japan is now available as a "blue book." Keywords are multi-generations, diversity, and independent expandability. Every realized collective house has an attractive personality, and you can see views of lively life.

I hope this small book will be of interest to everyone.

For inquiries: <https://chc.thebase.in/>.



UIFA JAPON 事務局

〒102-0083

東京都千代田区麹町 2-5-4

第2 押田ビル (株)生活構造研究所内

Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866

E-mail: uifa@liql.co.jp

URL: http://uifa-japon.com

発行 2017年8月25日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON

c/o LABORATORY FOR INNOVATORS  
OF QUANTITY OF LIFE  
DAINI-OSHIDA BLDG.  
2-5-4, KOUJIMACHI, CHIYODA-KU  
TOKYO, JAPAN 〒102-0083PHONE :+81-3-5275-7861  
FAX :+81-3-5275-7866  
URL :http://uifa-japon.com

## 熊本地震から1年

柏原 雪子

## One Year After the Kumamoto Earthquake

KASHIWABARA Yukiko

熊本城の桜は今年も見事に咲き誇っている。例年花見客で賑う参道は復旧工事の為閉鎖されている。遠巻きに天守閣を仰ぐと輪郭が青空に映えて美しい。外国人が多く地震で傷ついた熊本城も観光資源になっているようだ。

姪の住む益城は瓦屋根に土壁の農家が多く被害が大きかった。瓦礫の山は更地となり景色は一変し、人々の繋がりも断ち切れ、身近な人を亡くした痛みは癒えずまだ仮設住宅に暮らす人は多く支援の手が欲しいところだ。

繁盛レストランを営んでいたカップルは産山に移り住み百姓になった。名水池山水源は健在でいい作物が採れそうだ。ブドウの苗木を植え、数年後はワインを作り納屋を改造しレストランにする夢を熱く語ってくれた。

母が住む南阿蘇では、俵山トンネルが開通し、地盤沈下の家も修復できて前の暮らしに戻りつつある。森のレストランラッシュは往来ができず仮設住宅暮らしだったが、最近仮設食堂で腕が振るえて笑顔に戻ったそうだ。

After being greatly damaged by the April 2016 earthquakes, Kumamoto Castle is not yet repaired, but the cherry trees blossomed magnificently. The paths were closed for repair, and from a distance we admired its invincible towers framed by a blue sky.

The farmhouses of suburban Mashiki suffered terribly, with the landscape changed completely. Mountains of debris, families torn apart, life in temporary housing, the painful loss of loved ones, the yearning for supporting hands — they have not yet recovered.

A couple used to run a thriving restaurant, but moved to Ubuyama to farm the land. They harvest crops close to a famous springwater pond. They strive to fulfill their dreams of making wine from vines they planted and turning an outhouse into a restaurant.

Life is gradually returning to normal in nearby Minamiaso. A renowned French restaurant closed down and its owners have turned their skills and smiling faces to running a sophisticated snack bar.



熊本城の桜

## ■役員会報告

## 2017年度第1回5月17日

第25回総会準備 妹島氏記念講演準備 すみだ北斎美術館見学報告 事業助成申請報告 UIFA・JAPON 名刺案 全会員の活動グループ参加促進 NL106号発刊 NL広報各大学配布報告

## 2017年度第2回7月1日

第25回総会および記念講演直前進行確認 懇親会確認 平成29年度普及事業助成採択 第67回海外交流会準備 このゆびとまれ豊洲ツアー準備 NL107号編集企画報告

■英文 ネイティブ監修を、Karen Severns にしていただきました。

■英訳原文執筆 (著者以外) T: 飯田、M: 宮本、Y: 吉野

## 被災地通信 (17)

6年と4ヶ月の仙台近郊沿岸部の今  
Report from the Disaster Area (17)岩井 紘子  
IWAI Hiroko

2011年3月28日の視察から6年後の2017年4月25日の視察をし、感じるもの。



被災した仙台市東部沿岸部は居住が叶わなくなった半面、海との視界を遮るプレキャストコンクリートによる壮大な防潮堤が幅を利かせた風景に様変わり。被災された元住民はどこに移住されたのか。荒涼とした風景にはポツンとたたずむ様々な慰霊碑とか新設された避難の丘があるのみ。その近郊には今風文化住宅と云わんばかりの、住まい手感性とかけ離れた人気配のない画一的な新興住宅地が、復興まがいを装っている。

心ある復興とは震災遺構の建物保存を大事にし、再稼働しはじめた建物を応援し、被災者に寄り添った地域、地縁の復活を根底にあって欲しい。近郊の自立戸建てや集団移転、公営集合住宅等テンデンバラバラの新しい営みに、うまく溶け込めた人、新たな孤独と闘っている人様々だが、時は待たなし。社会資本や産業、生活基盤というインフラ整備の進捗と、失われた過去とのし絡み間での整合性は何時噛み合うのでしょうか。

The landscape of the coastal areas of eastern Sendai, 6 years after my visit, has changed completely. Huge tide breakwaters of pre-cast concrete block the ocean view. There are only memorial monuments and a new evacuation hill in the desolate land. One-size-fits-all houses in the newly developed residential areas show no signs of life. Where did people go? Is this really an ideal reconstruction?

The reconstruction support should include regional, and local community networks. When will there be a consistency between infrastructure development and the lost past? (T)

## ■編集後記

2020の会期は熱中症の選手観客なしか、NL英文併記も8月過酷(中野) 暑い夏、室外機の熱風をタイムマシンで冬に送りたい(薄井) 計画道路が事業化され実家が解体される一親姉妹の記憶の歴史と向き合う暑い夏(井出) 災害大国日本!ゼロメートル市街地における「浸水対応型市街地」の協同研究を「浸水・親水」の視点で進めています(渡邊) 夏本番、風が恋しい編集者?(宮本) 今年もエアコンなしで頑張っていますが、そろそろ限界(飯田) 地元の市に遺贈された日本家屋を多世代交流の居場所にと、仲間たちと運営始める(牛山) Congratulations on the 25th anniversary of UIFA Japon. May you continue to inspire future generations with good design and devoted volunteer work. (Karen Severns)